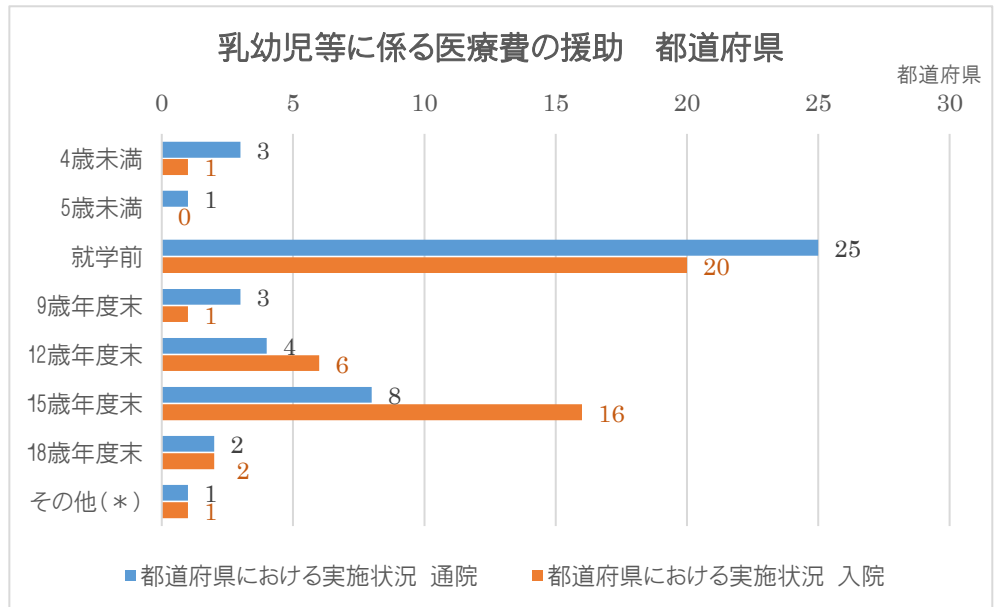


子育てに関する 行政制度及び NPO 法人サービスについて

## 第 30 回 平成 29 年度「乳幼児等に係る医療費の援助についての調査」

乳幼児等に係る医療費の援助について、厚生労働省による調査結果が報告されました。平成 29 年 4 月 1 日現在における特徴は、全ての都道府県及び市区町村が乳幼児等に係る医療費の援助を実施していること、また、都道府県では通院・入院ともに就学前までの児童が最も多く、市区町村では通院・入院ともに 15 歳年度末（中学生まで）が最も多かったと報告されています。



(※) 交付金のため、対象年齢・所得制限・一部自己負担に関する規定なし

### 北海道南富良野町

#### すこやか子ども医療費

##### 【対象】

町内に居住している0歳から満22歳到達後最初の3月31日までの乳幼児、児童生徒(小中高校生)、学生(大学及び専門学校生)。

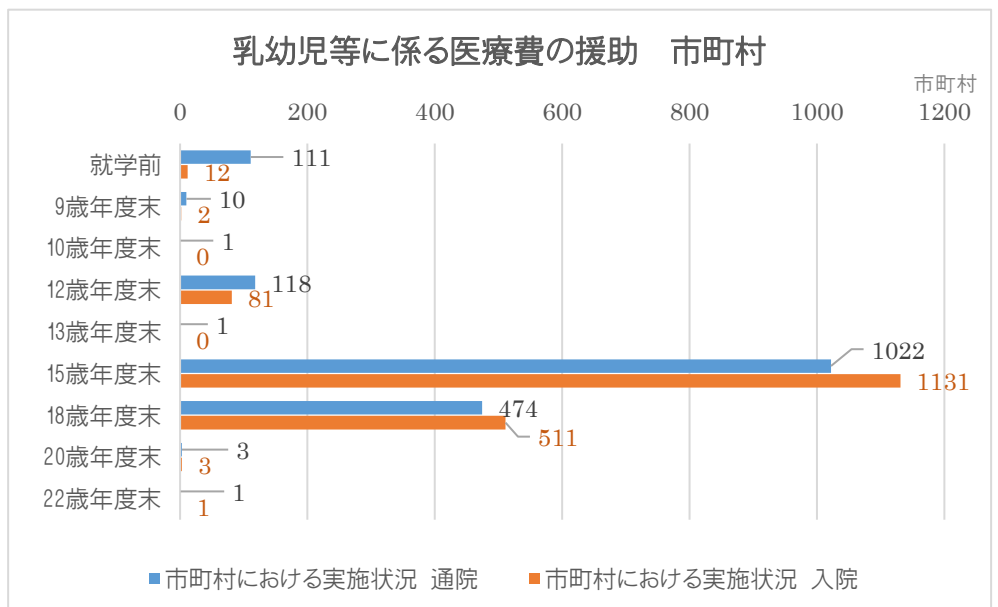
なお、保護者が町内に居住し、子どもが高校及び大学進学により町外に転出した場合も対象となる。

※ただし、通信制学校、修学年限1年未満の学校在籍者等は対象外。

##### 【助成額の内容】

医療費(通院・入院および歯科診療、病院で処方されたお薬代など)の一部負担金を全額助成。受給資格の所得制限はない。

※保険適用外の費用(入院時の食事代、病衣代、薬の容器等)は、対象外。



乳幼児等に係る医療費の援助は、年々拡大傾向にあります。また、グラフを見てもわかるように、都道府県の対象年齢を超えて実施している市町村が多くなっています。例をあげると、通院における医療費の援助を 4 歳未満としている県に、富山県・石川県・熊本県がありますが、富山県・石川県のすべての市町村が少なくとも 15 歳未満まで、熊本県においても少なくとも 9 歳未満までを対象に医療費援助を実施しています。また、平成 23 年 8 月より 22 歳年度末までを対象としている北海道南富良野町ですが、北海道としての医療費援助の対象は就学前となっています。

参照：厚生労働省HPより <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000213116.html>

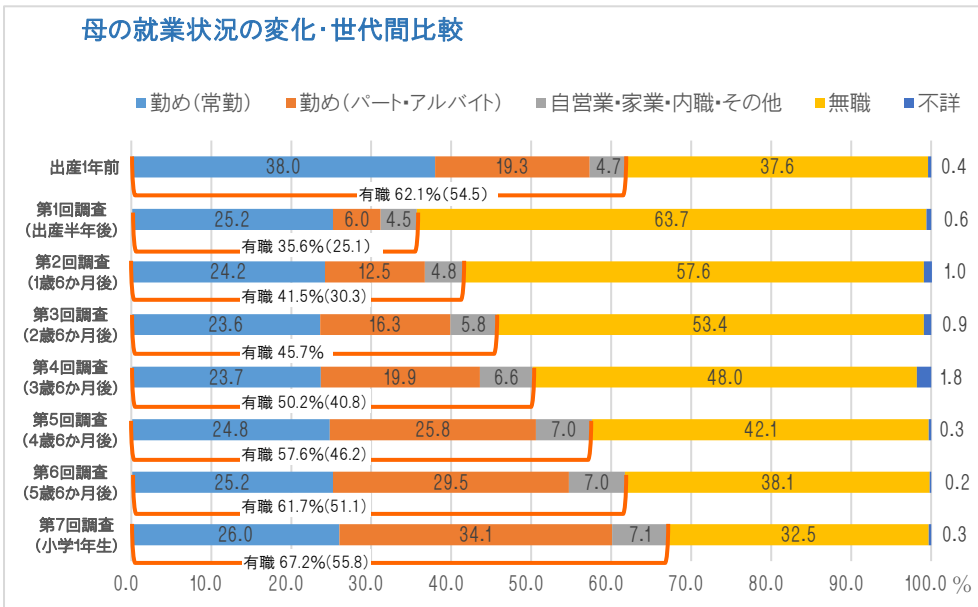
# 「第7回 21世紀出生児縦断調査(平成22年出生児)の概況」

厚生労働省による出生児縦断調査の結果が報告されました。この調査は、全国の平成22年(2010年)5月10日から同月24日の間に出生した子を対象とし、同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成22年に出生した子の実態、父母の就業状況、家族の状況、子どもの生活の状況、学校生活・放課後の状況、子育てに関する意識、子育て費用等及びその経年変化の状況を継続的に観察しています。また平成13年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行い、少子化対策等に生かすことを目的としているものです。

調査回における対象児の年齢・実施時期

	対象児の年齢	調査時期	回収数
第1回調査	月齢6か月	平成22年12月1日	38,554
第2回調査	1歳6か月	平成23年12月1日	33,356
第3回調査	2歳6か月	平成24年12月1日	32,380
第4回調査	3歳6か月	平成25年12月1日	29,582
第5回調査	4歳6か月	平成26年12月1日	28,161
第6回調査	5歳6か月	平成27年12月1日	27,785
第7回調査	7歳(小学1年生)	平成29年5月25日	25,397

## 母の就業状況の変化・世代間比較



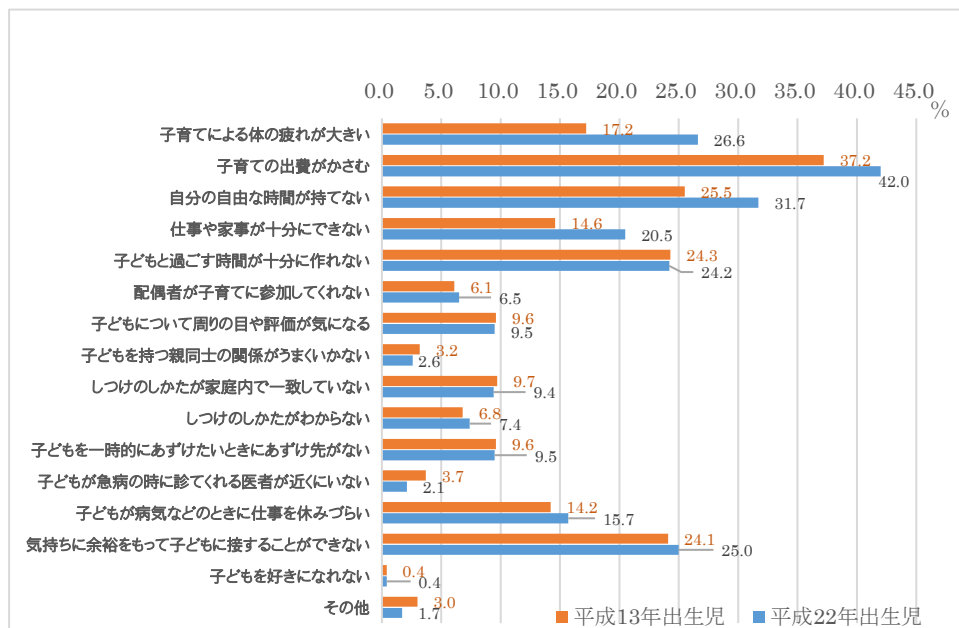
注:1) 平成22年出生児の第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者(総数22,023)を集計。  
 注2) ( )内の数値は、平成13年出生児の第1回調査から第7回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者(総数33,266)を集計したものである。  
 なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

## 母親の有職状況

母が有職の割合は、出産1年前の62.1%が第1回調査(出産半年後)で35.6%に低下したが、その後は年々上昇し、第7回調査(小学1年生)では67.2%となり、平成13年出生児(第7回)の55.8%に比べて11.4ポイント高くなっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め(常勤)」の割合は、第1回調査(25.2%)から第7回調査(26.0%)まで大きな変化はないが、「勤め(パート・アルバイト)」の割合は、第1回調査(出産半年後)の6.0%から年々上昇し、第7回調査では34.1%となっている。

## 子どもを育てていて負担に思うことや悩みの内容の世代間比較



注: 第7回調査の回答を得た者(平成13年出生児総数36,785、平成22年出生児総数25,387)を集計

参照: 厚生労働省HPより  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-22a.html#link01>

# Support for **Woman** Doctors ～私からあなたへ～

## 「すべての出会いに感謝して」

吉村 裕子先生【東京都 25 期】  
社会医療法人ましき会 益城病院  
お子さんは小 6、小 2、6 歳、3 歳の 4 人



東京都 25 期の吉村裕子です。このたびリレーエッセイのバトンを頂くことになり、卒業後のことを思い起こしてみたいと思います。

大学卒業後、東京都立の総合病院にて初期研修を開始、2 年目のおわりに熊本県出身の同級生と結婚しましたが、すぐには同居せず 3 年目は東京・熊本それぞれで私は研修を続け、夫はへき地の病院勤務となりました。この 1 年の間に県や都の自治医大担当とその後のへき地勤務に関して相談させていただいたり、シュミレーションしたりもできたように思います。特に東京都は当時から都の担当者の中に卒業生の先輩がおられて親身に今後の勤務配置について検討・助言をくださったことが大きかったです。都道府県によって初期研修の年数からへき地勤務の長さ、後期研修の有無や方法も全く異なり、この『結婚協定』が結婚する他県同士の当事者のみならず、関係する多くの方々にとって非常に悩ましいものなのは当時も、今も同じですね。

私の場合、4 年日以降 3 年間は夫と共に熊本県でへき地勤務、その後は夫婦 2 人で東京に戻ってへき地勤務や後期研修のプランとなり、4 年目は熊本県山間部のへき地病院で勤務となりました。5 年目は海にほど近いへき地の小病院に勤めましたが、間もなく第 1 子の妊娠がわかりました。勤務病院の院長や県担当者にも色々配慮・検討いただいて、年度途中の 1 月に産前の休みに入ったタイミングで形のうえでは県庁勤務へ異動となり、その後は産後休暇に続けて育児休業として 6 年目 1 年間は仕事から離れました。7 年目からは予定通り、夫も一緒に東京に戻りました。東京での最初のへき地勤務は私(+長男)が山間部の小規模病院、夫は船で 5 時間ほど必要な離島と、お互い単身赴任のような感じで始まりました。当時は「1 歳の子供を抱えて、医者も少ないへき地の病院でど

うやって仕事と生活を両立させるのか？(できるのか??)」で頭はいっぱい、気持ちもいっぱいだったように思います。夫の両親は遠く離れ、自分の両親も少し遠くまで働いている…そのなかで何とかするためには公立の保育園で日中お世話になることを中心として、当直時の預かり先として市町村のサービスであるトワイライトステイ(乳児院での宿泊預かり)利用、病院関係者のご家族にあずかってもらう、ファミリーサポートセンターを利用するなどしていました。時には熊本から夫の母が泊りがけで手伝いに来てくれたり、週末は自分の実家に戻ったりもしましたが、この年に様々な子育て支援サービスを調べ、体験したことは、その後様々な人の手を借りながら子を育て働き続けるうえで重要なスタートになったと感じています。

その後も離島診療所に夫婦で勤務したり、熊本に戻って自分に残っていたへき地勤務 1 年を海辺のへき地中核病院で働きつつ、義務明けの直前 2 か月は第 3 子切迫早産で勤務していた病院に入院させていただいたり…とにかドタバタ、息子が 4 人に増えた今でもドタバタに全く変わりはないのですが、義務年限内を思い返すと特に熊本で初めてへき地勤務を開始したころから長男を連れてのへき地赴任が強く印象に残っています。

考えればその時の職場の上司や同僚だけでなく、子供にかかわってくださったすべての方、地域の応援、親兄弟の応援など数えきれないほどの人の応援があっはじめて、自分や家族は過ごしてこられたのだという感謝の気持ちでいっぱいです。現在は市街地の精神科単科病院で精神科医として勤務していますが、月数回はへき地の診療所などで精神科の診療もかかわらせていただいております。これからも細々とではありますが地域の医療に参加していきたいと考えています。

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。  
連絡先:自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係  
E-mail: chisui@jichi.ac.jp



# 絵本の森

酷暑が日本を覆う今年の夏。本を読む気にならない。そんな暑さです。そこで、今回のテーマは「海」。本の中から潮風を感じる絵本を紹介します。家族で海に出かける前に想いを馳せ、出かけた後に思い出を繰りながら読んでみてはいかがでしょうか。



## なみ

作: スージー・リー  
出版社: 講談社  
発行年月: 2009年7月  
定価: 1,400円(本体価格)  
読んであげるなら 5歳～

小さな女の子の波との追いかっこ。寄せてはかえず波との無心の遊び。文もなく、2色だけで、だれの心にもある夏の思い出のきらめきや、ざわめきが表現された世界中で話題となった作品です。



## 青いやドカリ

作・絵: 村上康成  
出版社: 徳間書店  
発行日: 2001年06月  
定価: 1,500円(本体価格)  
読んであげるなら 5歳～

波打ちぎわに立つ男の子の耳にふしぎな声がきこえてきました。「怖いのかい? それなら、足もとにおちている貝がらをひろってごらん。海の声がきこえるだろ...」海の精ともいえるタコに誘われ、少年は海にもぐります。青く深い、美しい海の魅力と少年の勇気を描いた、まぶしい夏の絵本です。

## ストレスケア

### レモンバーム



#### ●レモンバーム●

学名(Melissa officinalis)  
南ヨーロッパ原産のシソ科の多年生のハーブ。レモンを思わせる香りがあるため、食べ物や飲料の香り付けとして食用・使用される。耐寒性に優れ、繁殖力が非常に強いので基本的には日差しのあるところで乾燥させなければどんどん育つ。

記録的な猛暑が続く今年の夏。眠れない日が続き、疲れも残りがちですね。そんな季節、疲労回復や鎮静の効果があるレモンバームを生活の中に取り入れてみませんか。庭先はもちろんポットでも簡単に栽培できるレモンバームに注目です。

#### レモンバーム入りアイ스티ー

##### ●用意する物

紅茶 ティーバッグ 2袋  
レモンバーム 2葉

- ① 沸騰したお湯でティーポットを温める
- ② ポットにティーバッグと沸騰したお湯を入れ3分間ほどおく
- ③ ティーバッグを取り出し、紅茶の粗熱を取ってから十分冷やす
- ④ 氷を入れたグラスに紅茶を注ぐ
- ⑤ 布巾等で丁寧に拭いたレモンバームを掌でパンとたたき
- ⑥ グラスの紅茶にレモンバームを添えて出来上がり

